

天久保2丁目におけるレストラン顧客数と時間帯の変化

梁鎮武（地球科学専攻）

1. 研究背景と目的

平砂と追越は筑波大学の主な宿舎区である。この二つの宿舎区域に住んでいる学生の消費行動は活発であり、特に平砂宿舎と追越宿舎の周辺（天久保2丁目）に学生向けの様々な店が軒を並べている。色々なレストランが存在し、自分の都合と時間によって、料理を自由に選択できる。消費者たちにとって、非常に便利である。

本研究の目的は、つくば市天久保2丁目におけるレストランを研究対象とし、平日の顧客の数と時間変化の関係を明らかにすることである。

2. 対象地域と研究方法

二日間にわたり現地調査を行った。対象とするレストランを確定し、レストランのオーナーまたはスタッフに聞き取り調査を実施し、店の顧客の数及び混雑する時間帯の情報を入手した。顧客の逗留時間も聞き取った。

つぎに、アンケート調査の結果を図表化し、地理的な視点から分析した。

3. 考察

平日には、昼休みの時間は短いので、時間をはぶくために、ラーメンと定食など簡単な料理を提供できるレストランへ行く傾向が強い。昼の時間帯には、時間がかかるレストランを選択した人はあまり多くない。午後あるいは夜の時間帯には、日本食店や焼き肉店など調理に時間を要するレストランで楽しむ人が多い。

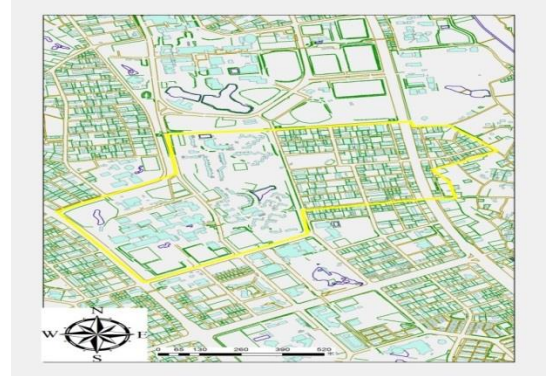


図1 本研究の調査範囲



図2 顧客が店に停留した時間（平日）



図3 顧客数が最大となる時間帯